様式第３号

令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	３４	学 校 名	静岡高等学校	校 長 名	小関　雅司

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	毎日の学習及び生活のリズムを確立する	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」と自己評価する生徒 70%以上 ○「挨拶ができている」と自己評価する生徒 80%以上	○全体 69% １年 58% ２年 74% ３年 76% ○全体 82% １年 84% ２年 79% ３年 82%	B	○「規則正しい生活をしている」と自己評価した生徒は、目標の 70%には届かなった。69%（昨年 67%、一昨年 65%）と年々数値が向上しているが、１年がリズムを確立するのに時間を要している。 ○「あいさつができる」と自己評価する生徒の割合は目標を超えたが、校内での挨拶行動を見る限りではまだ改善の余地がある。
イ	**「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する**	○授業を大切にする生徒、主体的に学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容がよくわかる」と自己評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員 90%以上	○全体 83% １年 86% ２年 80% ３年 83% ○全体 82% １年 79% ２年 84% ３年 85% ○測定ツールにより授業改善に取り組んだ教員 100%	A	○「授業を大切にしている」「授業の内容がよくわかる」と自己評価した生徒の割合は目標を超えることができた。ICT を活用した授業が着実に定着してきている。特に iPad を導入した１年生については、ロイロノート等の ICT を活用した授業実践が多くみられた。また、新型コロナウイルス感染症の出席停止等の生徒については授業配信等で対応した。 ○各教科・各学年において「学力テスト」について分析を行い、その結果が授業改善、３年生の進路指導に活用された。
ウ	**低学年からの高い志の育成に努め、進路実現を図る**	○進路行事実施後の進路意識の向上 ○入らなければならない大学を見つけた生徒の割合 80%以上	○全体 83% １年 86% ２年 80% ３年 83% ○入らなければならない大学を見つけた生徒 97%	A	○新型コロナウイルス感染症への対応により先輩後輩交流会は教室での動画視聴方式で、進路講演会と医学部進学講座は対面式で行った。対面式の実施の方が講師の熱量や意識の高さが伝わりやすく、本物・実物の持つ力が再認識された。浜松医科大学訪問、医師講演会、国際関係講座等も進路意識向上に資した。
エ	**学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに、社会に貢献する**	○学校行事や部活動に積極的に取り組む生徒 85%以上 ○1 部活 1 社会貢献活動 100%	○行事 88% １年 91% ２年 84% ３年 87% ○部活 85% １年 87% ２年 81% ３年 86% ○現時点では貢献活動数は未確定	B	○生徒は学校行事や部活動に積極的に参加し、充実した生活を送っている。 ○学校行事や部活動について、感染症対策の徹底と実施方法の工夫（仮装のライブ配信等）で大きな制限無しに行うことができた。今後、通常の学校生活に戻った時に学校行事等を円滑に通常実施できるように準備を進める。 ○新型コロナウイルス感染症の影響もあり目標には至らないが、可能な範囲で社会貢献活動に取り組んでいる。

様式第３号

オ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	○朝の読書週間年２回 ○図書館開放年 300 日以上	○６月と 10 月の２回、朝読書週間を実施できた。 ○図書館開放は 306 日となる見込み。	B	○朝の読書週間（毎朝 25 分の読書）を実施できたことは概ね好評であったが、他の行事と重複し日数が縮減された。来年は予定された 10 日間を確保したい。 ○図書館開放を支える図書館ボランティアを対象とする図書館研修を３年ぶりに実施した。(早稲田大学中央図書館) ○各種広報紙や POP で更に読書への関心・意欲を高めたい。
カ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	○健康観察を通しての情報共有 ○校内情報交換会　学期１回以上 ○学習環境の美化に努める生徒の育成 ○安全点検　学期１回	○毎日の健康観察表を通し担任や関係職員と情報共有できた。 ○校内情報交換会を２か月１回程度実施した。 ○全体 75% １年 74% ２年 74% ３年 79% ○学期１回の安全点検検を確実に実施できた。	A	○健康観察の結果は毎日集約され、管理職を含む関係者に回覧された。新型コロナウイルス感染に関わる情報は、管理職及び養護教員に集約され、適切に対処することができた。 ○学期２回程度の校内情報交換会に加え、緊急性の高い生徒のケース会議を開催した。複雑な問題を抱える生徒も増加しており、スクールソーシャルワーカー等の専門家と連携をさらに深める必要がある。 ○生徒の美化意識は年々向上している（今年度 75%、昨年 73%、一昨年 70%）。改修されたトイレを清潔に維持するためトイレ利用や清掃に関する課題を整理し、清掃マニュアルを作成した。
キ	教職員の校内外の研修を充実させる	○「スクール・ポリシー」、「育てたい資質・能力」を踏まえた授業改善に向けた研修機会の充実	○ICT 活用に関する校内研修を年２回実施した。探究的な学びを深める４校合同研修会（沼津東・清水東・浜松北・本校）を本年度は本校で主催した。	A	○ICT 活用に関する２回の研修を通して、多くの教員が ICT 機器を使うようになった。また、２回目の研修会では入門編と応用編に工夫したことで教科の枠を超えた ICT 活用の学びとなった。 ○４校合同研修会では公開授業や研究協議を通して各教科や総合的な探究の時間について、学校間で情報を共有することができた。 ○教員相互の授業参観週間を４月と９月に実施し、他教科も参観することで授業改善の意識がより高まった。
ク	**新学習指導要領に対応した教育課程への円滑な移行及び土曜オープンスクールの充実を図る**	○「カリキュラム・マネジメント」の視点からの新カリキュラム完成 ○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ 1000 人以上	○新学習指導要領に基づく新たなシラバスを年次進行で作成している。 ○７回実施、延べ 1574 人であった。	A	○観点別評価が実施された。まだ旧課程と併存しており、複雑になっているが、成績評価のシミュレーションなどによる検証を重ねてきたことで成績評価は円滑に行われている。 ○学校ホームページは学校行事や部活動ブログなどを中心に、頻繁な更新により効果的な広報ができた。 ○台風で実施できなかった時の参加予定だった中学生、保護者に配慮し、新たに参加できる機会を最大限設けた。

様式第３号

ケ	校内外のプログラムや外部人材の活用を通して、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する	○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 ○参加生徒、教職員の視野の拡大	○エンパワーメントプログラムの実施、ＰＤＡディベート大会参加した。 ○国や県が主催する留学等へ参加した。 ○元外交官による国際関係講座を実施した。 ○グローバル留学ガイダンスを実施した。	A	○エンパワーメントプログラムは 49 人が参加し、80%以上は大変良かったと評価している。一方、今後の本校生徒の参加にあたりプログラムの内容や費用対効果を考える必要もある。 ○ＰＤＡ即興型ディベート大会は参加生徒への効果は大きいが、教員の負担等も考慮し、大会参加の在り方を精査する。 ○トビタテ留学 JAPAN が再開され、第７期の国際ボランティア分野で生徒１人ルワンダに１か月の短期留学をした。また、県のジョージタウン大学オンライン英会話プログラムにより８月の10日間、生徒３人が参加した。 ○外務省顧問である杉山晋輔氏（元駐米大使）による講演会を実施し、グローバルな視野を広げた。 ○留学経験者の本校３年生をゲストスピーカーに迎え、業者による高校留学と海外大学進学ガイダンスを行い、進路選択の視野を広げる機会を設けた。
コ	**「学校における働き方改革」に組織的に取り組む**	○行事・業務の意義や必要性を見直し、整理・精選を図る。 ○産業医への勤務状況報告と指導助言の実施 毎月	○成績処理方法のシンプル化や各種アンケートをグーグルフォームで実施したが、特筆すべき新たな行事・業務の整理・精選には至らなかった。 ○時間外勤務が月 80 時間を超えた職員については月 1 回産業医に報告し、心身の健康維持に向けた指導助言を受けた。	B	○学校行事や業務の整理・整頓は簡単ではないが、引き続き検討を続けていく。特に、部活動の統廃合は多くの学校で実施、検討されているが、本校でも今後検討の必要がある。 ○定時退勤日やテスト期間中に会議を設定しないことなどにより、働き方改革に努めているが、観点別学習評価への対応、一人一台端末の活用、新型コロナ感染症への対応等で、新たな業務量が増えた。 ○教員は学習指導、進路指導、部活動指導等もあり、時間外勤務の縮減は難しい面もあるが、時間外勤務が月 80 時間を超えた職員には声掛けや自身の働き方を確認するチェックシート等を配布することなどを継続して行う。 ○今後、産業医からの健康維持に関する指導助言については職員会議などを通して全体で共有していきたい。

※「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール：本校においては「学力テスト」